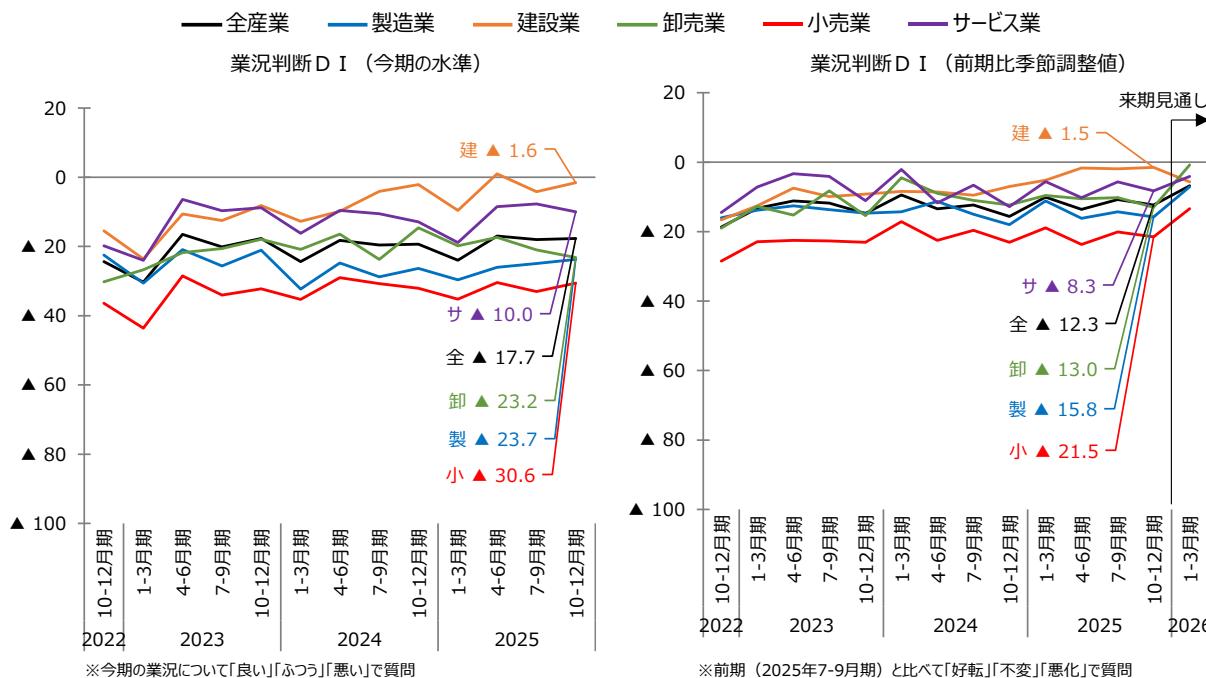


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 関東

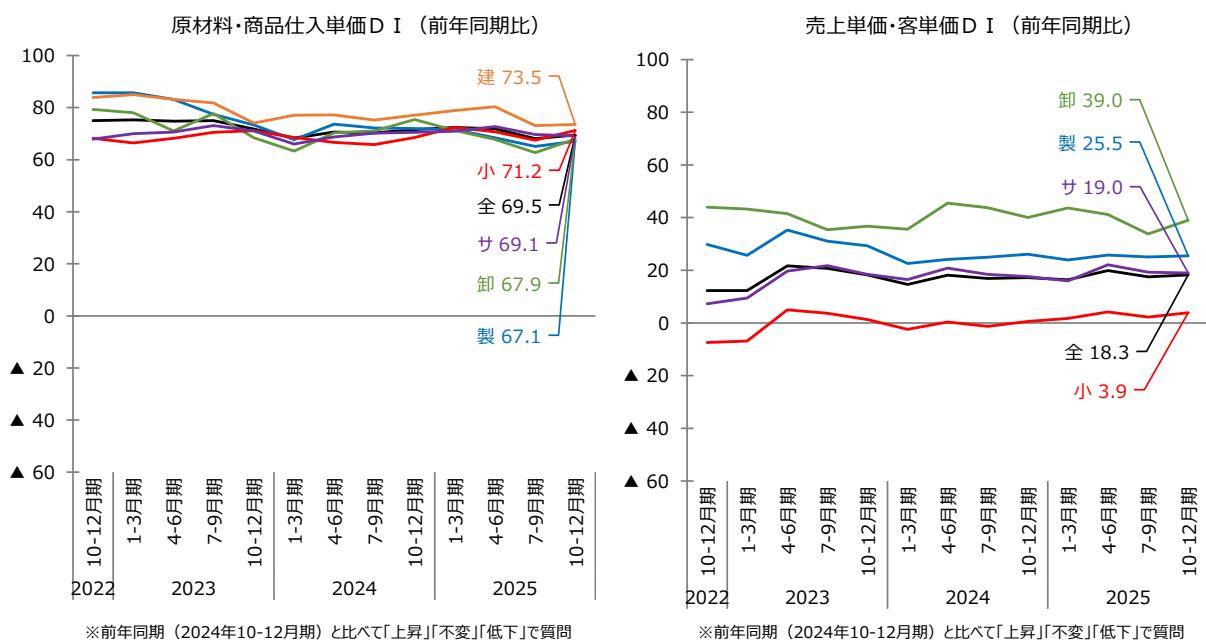
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より0.3ポイント増の▲17.7と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント増の69.5で3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の18.3と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、関東：4,859企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

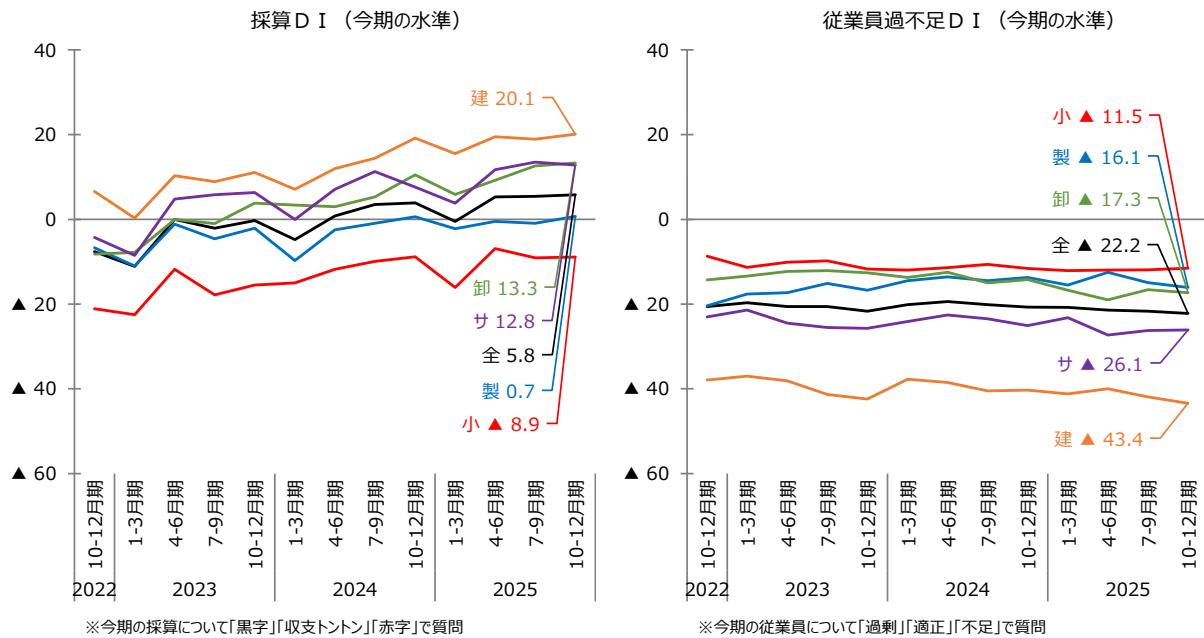
第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 関東

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の5.8と3期連続してやや上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.5ポイント減の▲22.2と6期連続してやや低下となった。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業、卸売業で低下した。



5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	アメリカ関税の影響、EV移行の停滞等から生産する金属ばね等、発注数量やタイミングの落差が大きい。その為、内示や予定、先をある程度見通しできる情報がぎりぎりまで入らなく、材料や資材の発注や手配が遅れ納期が厳しい。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	7月～9月にかけて暑さで仕事にならなかったが、10月からは稼働率が上がっている。引き続き、人手不足で納期に間に合わずため、事業主が休日も出勤している状況である。	建設業 型枠大工事業
	大手通信販売会社へのサイバー攻撃の影響により取引先への商品提供が出来ず、売上が減少している。先行きの不安あり。	卸売業 事務用機械器具卸売業
	米仕入価格上昇・前年の物量不足で昨秋は前年価格より1.5～2倍の仕入単価であったため、今秋は数量確保が必要と感じた為、前年の3倍の在庫を確保した。その仕入資金が重みになっている。販売量も鈍い。	小売業 菓子小売業(製造小売)
	客単価・来店客数ともに増加しているにもかかわらず、それ以上の原材料費の高騰と人件費増加の影響から赤字となっている。	サービス業 食堂、レストラン(専門料理店を除く)
見通し	現在の作業量は問題ないが、先の需要(来年)は前半が低調予測であり、後半の需要を如何に取り入れるかが課題である。	製造業 発電機・電動機・その他の回転電気機械製造業
	新卒の求人を行っているが、3年連続で新卒が入ってこない状況で大変厳しい。また県工事では3年越しの工事が赤字になる見込みで全体の利益も厳しい状況が見込まれる。コストの見直しを行い利益の確保に努めていく。	建設業 一般土木建築工事業
	大手企業の参入などで売り方の変化、OAの活用など、販売の方法に大きな変化が考えられて、厳しい状況が予想される。	卸売業 その他の衣服卸売業
	従業員減による売上(利益)の減少に加え、人件費の増加により、経営は苦しくなると見通している。	小売業 ガソリンスタンド
IT業界全体は好調を維持していると思うが、当社の主要顧客の経営状況が悪化しており、今後のシステム投資の動向が懸念される。		サービス業 受託開発ソフトウェア業